

特別企画展 モータースポーツのまち・鈴鹿発～世界へ羽ばたく SUZUKA の歴史～
「鈴鹿から世界へ」～大きな未来を拓いた小さなクルマ「Honda シビック CVCC」

「モータースポーツのまち」と称される本市の原点は、1960年に「スーパーカブ」の生産拠点として「本田技研工業株式会社鈴鹿製作所」が誕生し、国際規格の「鈴鹿サーキット」の建設が実現したことに端を発します。

1960年代の長く続いた高度経済成長は、国民の生活水準を大きく向上させ、道路網の整備とともに、国内におけるモータリゼーションは加速していきます。一方で、急速な工業化と都市化による大気汚染は、公害という深刻な社会問題として認識されるようになり、クルマが排出するガスも例外ではありませんでした。

1970年12月、米国は、世界中の自動車メーカーが達成不可能と主張した自動車排出ガスに関する法律（マスキー法）を発効。さらに、1973年に第1次オイルショックが発生すると、環境性能がクルマの品質を左右する時代へと変遷していきます。

4輪事業に参入して10年にも満たない「Honda」が、社運を賭けて開発したのが、1972年に鈴鹿製作所でラインオフした初代「シビック」でした。コンパクトな台形フォルムのボディは、広い居住性を確保し、軽量な車体と環境性能に優れた低燃費のエンジンは、軽快な走りを実現。セダンが中心だった世界の自動車市場に新風を巻き起こしました。

さらに、その初代「シビック」の中で、米国の環境規制に対し、ゼロから挑んだ「CVCCエンジン」とそれを搭載する完成車「シビック CVCC」は、マスキー法適合の第1号として、「Honda」の本格的な世界進出の足掛かりを築くこととなります。コストパフォーマンスに優れ、大衆に受け入れられていった「シビック」は、後発モデルが続々と誕生し、入門者からプロフェッショナルまでが愛好するワンメイクレースのベース車両としても成長し、モータースポーツの社会的認知向上にも貢献します。

米国の関税施策や不安定化する中東情勢に世界が懸念を示している今年、世界に先駆けて環境基準を達成した「シビック CVCC」の米国向け本格輸出から50年を迎えます。鈴鹿から世界へ羽ばたくこととなった日本車「シビック」にフォーカスすることで、本市の成長・発展軌跡を市民と共有し、広く「モータースポーツのまち・鈴鹿」を発信する機会にします。

●展示内容

- ・ホンダ シビック CVCC
- ・ホンダ シビック CVCC エンジン ※詳細別紙参照

●展示期間（予定）

令和7年7月10日（木）～10月22日（水）

※令和7年7月10日の13時から搬入作業を行います。



同型車イメージ

●展示場所：市役所 本庁舎1階 市民ロビー（モータースポーツ振興コーナー）

●主催：鈴鹿市

協力：ホンダコレクションホール、NPO 法人鈴鹿モータースポーツ友の会

【事務担当】 鈴鹿市産業振興部 商業観光政策課
山本・後藤
電話 059-382-9020（直通）